イラン国テヘラン都市交通調査報告書

昭和 52 年 12 月

国際協力事業団
派遣事業部

国際協力事業団
受入月日 '84. 4. 21 | 304
71
登録No. 03618 | EXF

目　　次

1. 調査の背景および経過 …… 1
2. 現状についての認識 …… 1
3. 具体的な提案の骨子 …… 2
　1）ただちに計画に着手すべき最重点プロジェクト …… 3
　　A：自動車交通を効率化するための施策 …… 3
　　B：自動車交通量を軽減するための施策 …… 4
　2）長期的な交通対策について …… 5
4. 今後の対応 …… 6
5. む す び …… 7
関係者名簿 …… 8
付図 I

JICA LIBRARY
1044041[0]

1. 調査の背景および経過

１９６９年，日本国政府はイラン国政府およびテヘラン市当局の要請にもとづき「テヘラン市総合交通施設計画」について調査団を派遣し，翌１９７０年４月その報告書を提出した。

しかしながら，その後７年間にテヘラン市の人口，自動車台数は急激に増加し交通事情が大きく変化してきている。今回テヘラン市長より，前回の報告書について再検討するとともに，当面の具体的かつ緊急な対策をたてるため，日本より専門家を派遣するよう要請がなされたので，日本国政府は次の専門家を派遣した。

団長　井上　孝　東京大学工学部教授（都市工学科）
　　　村上　順雄　建設省九州地方建設局鹿児島国道事務所長
　　　御代田敬一　運輸省大臣官房政策計画官
　　　山本　卓朗　国鉄東京第一工事局調査課長

上記調査団は１９７７年１１月２４日から１２月１２日までテヘラン市に滞在し，市長およびテヘラン市幹部との打合せのほか，市交通局，財政局，開発局，区役所，ＴＤＣ（Tehrān Development Council），ＳＴＲ（South Tehran Re-development Organization）道路省，警察，国鉄，バス会社，地下鉄会社から事情説明を受けるとともに市内全域にわたって交通状況を視察し，都市交通全般にわたって検討を行なった。

この報告書はその間に得た既存の調査報告等およびテヘラン交通関係者との討議および調査団独自の調査にもとづき現地において作成したものである。

2. 現状についての認識

我々は次の諸点に特に注目した。

(1) イラン国全体において１９６６年から１９７６年の１０年間に人口は2,６００万人から3,４００万人へと増加し，ＧＮＰは３００ＵＳドル/capitaから2,０００ドル/capitaへと大きな経済的発展をとげた。

(2) テヘラン市においては同じく１０年間に人口は３００万人から４５０万人へ，自動車台数は１２０千台から８００千台へと増加し，5 years boundary

（２４０Km^2）全域に開発がすすみ，その外側へと住宅建設が拡大している。

(3) 自動車台数の増加に伴ない都心部における混雑がひどくなっているにもかかわらず都心部対策が遅れている。

(4) 既存の各種レポートによって基本的な問題点はほぼ抽出されているが，我々が調査した範囲では特に，ＴＤＯのレポート等の非常にすぐれた提案が見受けられる。

(5) 都市計画マスタープランが作成され，既に高速道路の建設，立体交差の建設，一方通行の実施，信号の系統化，地下鉄建設などが行われつつある。しかし，当面の対策として，即効性，経済性，予算等からみた優先順位が明確になっていない。

(6) 立体交差の建設などがなされているが，さらに交差点について改善の余地がある。

(7) バス対策について検討されているが，さらにバスの利用を促進するために，車両運転士の増備・ルート編成などについて改善の余地がある。

(8) 交通制御・規制・マナーについては特に改善の余地がある。

3. 具体的な提案の骨子

大都市の交通対策は基本的に高速道路，レール，バスなどがそれぞれ有効に働らくことによって大きな効果を発揮するものである。しかしながら，投資にあたっては，財政の枠を考慮しながら，経済効果の高いものから順次着工する必要がある。

我々は今回，きわめて短期間のうちに広範囲にわたるテーマについて調査を行ったため，すべての項目について詳細なプランを作成するに至らなかった。しかしながら当市の交通事情からみて，短期間に，強力に対策をすすめる必要があると思われるので，特に重要と思われるプロジェクトにしぼって提案することにしたい。

次のベースにもとづき提案する。

(1) プライオリティが高く，即効性のあるプランを見出す。

(2) 都心部の救済を特に重視する。

(3) 提案は過渡的なものであり恒久的な交通対策に対して齟齬をきたさないようにする。

1) ただちに計画に着手すべき最重点プロジェクト

A：自動車交通を効率化するための施策

① 交通取締りと市民の交通マナーの改善

我々は都市内交通の改善をはかるためには，市民が交通規則を遵守し，良好なマナーにより行動することが絶対不可欠な要件であると信ずる。市民の交通マナーの向上と強力な交通取締りによって既存の施設を有効に利用する方法を考えることが最も重要である。

そのような観点から我々は次の事項について改善することを勧告したい。

a. driving manner の向上
b. 市民に対する教育
c. 規制実施措置についての市民へのＰＲ
d. 歩行者横断禁止のための路側ガードフェンスの設置
e. 横断歩道橋の設置
f. 車線の明確化，レーンマーキングの活用
g. 信号機器のメインテナンスと信号の改良
h. 主方向優先の時間調整
i. 警察官の教育と権限の付与
j. 「改善モデル地区」「改善モデルルート」の設置

② 既計画（市提示案）についての評価

a. 全体の路線位置および施工順序はおおむね妥当と考える。
b. 都市中心部においては，かって大きな街路拡巾が行われているのでこれ以上の幹線街路の拡巾工事はあまり期待できない。
c. そのため，都心部の通過交通を排除する意味でバイパスルートを優先すべきである。Navab ルート，Anushirvan-é-Dadgar Darius Extension to West を早期完成する。
d. 東から都心へのアプローチとして Shahnaze を完成する。

e. 放射状路線3系統を完成

f. 東西を連結する道路 Thakht - Tavoos 1系統

g. 市北部の周辺高速道路は施工しやすいが，すぐ着手するのではなく住宅地の開発状況に合せて整備すべきである。

h. 道路省が施工する南部 ring road については，道路省によって推進されることを期待する。

③ 内環状高速道路の建設

1970年4月に提出された日本国調査団報告書に提案された内環状高速道路建設について我々は経済的にも技術的にも十分 feasible であると考えるものであるが更に詳細な feasibility study を行ったうえで都市の美観，大気汚染問題等に配慮を加えつつ早急に建設に着手する必要がある。従って我々は付図に示す位置に elevated one way expressway を提案する。

これは都心街路の混雑緩和に最も効果的であり，distributer として，また by pass として機能するもので更に街路交通を軽減することにより附随的に街路交通についても種々の対策をとることができる。また，将来立体交通施設（パーキング，バスターミナル）の建設にも有効である。

④ 都心部主要交差点の改良

都心部では交差点の容量が交通量を支配する。そこがネックとなるので交差点の改良を第一の目標とする。テヘラン市内においてはすでに Shah-reza通り等において連続的立体交差が作られているが，Sepa 通り，Shushu 通りについても系統的に連続立体交差橋を建設する。更に特に交通の混雑している交差点について個別に立体交差を建設する。南北方向路では Ferdowsi通り, Roosebelt 通り等に適用すべきである。

立体交差の工法としては都市の美観上もすぐれているので出来る場所は under pass を提案したい。

ロータリーについては，交通流の妨げとなる例が多いので撤去すべきである。

B：自動車交通量を軽減するための施策

① 都心部公共輸送システムの強化（バス，タクシー）

a. バス

- 将来，自家用車，タクシー利用者がイージーに利用できるよう改善する。
- 当面，台数を増やし，フリークエントサービスを行なう。
- 車両のアコモデーションの向上をはかり，乗降を能率化する車両改善を行なう。
- 定期券の導入
- ルートの再編成
- 均一料金制の導入
- バス運行の特に多い路線（例えば５０台／時／方向）においては，バス優先レーンの導入を検討してみる。
- サービス時間の延長（深夜・早朝）

b. タクシー

- 車両数の増大
- タクシーベイの活用

② 地下鉄（１号線）の建設

建設に時間のかかる都心部において自動車交通を止めないで施工するよう検討し，経済効果の高い区間から着手する必要がある。場合によっては地下鉄計画との比較においてモノレールの導入について検討する必要があると思われる。

③ 時差通勤制度の導入

通勤時間帯に一時的に集中する交通量を分散するために官庁・大会社の出勤時間をずらす方法がある。既調査によれば交通量に明確なピークがないという理由でこれを否定する意見もある。しかし，通勤時間の制約によってやむを得ず車内滞溜時間が長くなるケースも考えられるので，今後さらに検討するのが望ましい。

2) 長期的な交通対策について

短期間に強力に実施する対策に加え，又は引きつづき実施される交通対策につ

いて重要と思われる点は下記のとおりである。

① 広域交通制御システムの導入

② 高速道路の建設

③ 街路の改良

④ 駐車場の整備

⑤ バス対策

⑥ 地下鉄の建設

⑦ モノレール等新しい交通システムの導入

4. 今後の対応

調査団としては，イラン政府およびテヘラン市に対し，以下のごとく提案する。すなわち，当市においては，既にいろいろな調査がなされているが，上述の短期的な緊急対策をスムースに実施するためには，さらに次のような詳細調査および専門家の従事が必要である。

1) 今後必要となる調査

① 交通制御・規制に関する調査

② 都心部高速道路建設と街路改良に関する調査

③ モノレール等新しい交通システムの導入に関する調査

④ バスシステム改善に関する調査

⑤ 都心部公共立体駐車場の建設に関する調査

2) 専門家による検討

① 交通制御・規制の専門家

② 高速道路計画の専門家

③ 街路計画の専門家

④ バス計画の専門家

⑤ 駐車場計画の専門家

5. む す び

今回の調査は非常に短期間であったにもかかわらず，市関係各位の絶大なる御協力によってスムースにすすめることができた。ここに深く感謝の意を表する。

今後このレポートの検討がなされ，テヘラン市の交通対策に役立つことを強く希望している。

関係者名簿

Ministries of Iran

Dr. Cyrus Ocia	Executive Director, Tehran Development Council Secretariat, Plan & Budget Organization
Dr. Mohsein Ebrahimi	Deputy for Planning and Coordination
Mr. Sadigh Vasili	Vice Minister on Freeway Affairs, Ministry of Road and Transportation
Dr. M. Nouri	Safety Department, Ministry of Road and Transportation
Mr. Soleiman Benyamini	Safety Department, Ministry of Road and Transportation
Mr. A. Radmehr	Deputy of Managing Director, South Tehran Redevelopment Organization
Mr. R. Farzanmehr	Technical Deputy of Managing Director, South Tehran Redevelopment Organization
Gen. B. Amini-Afshar	Deputy Head of Road Police

Mr. Ahmad Nadjafian	Vice President, Iranian States Railway

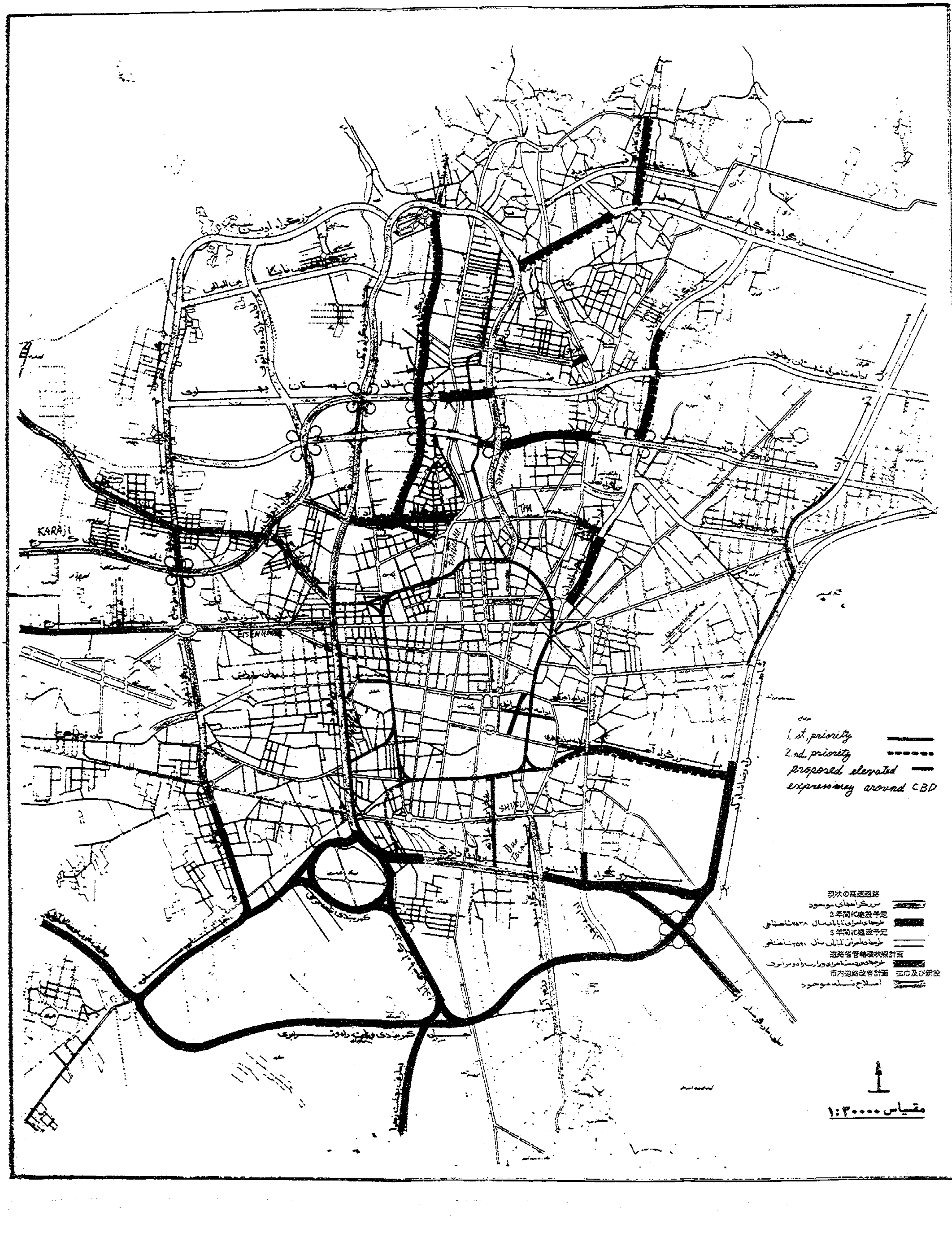
Tehran Municipality

Mr. Ardaghi	First Deputy Mayor of Tehran
Mr. Kazem Moinzadeh	Director, Planning Department
Mr. Mahmood Bastani	Head, Budget and Planning Department
Mr. Darush Bayat	Deputy Head, Budget and Planning Department
Col. Ghavari	Deputy, Traffic Police Department
Mr. Kaviani	Mayor, No. 5 District Municipal Office
Mr. T. Vasfenourie	Deputy Manager, No. 5 District Municipal Office
Mr. Manuchehr Ehteshami	Deputy Mayor for Technical Affairs, Director, Traffic Department
Mr. Mehdi Razavi	Head of Traffic Affairs
Mr. Farhad Majlesee	
Mr. Bahman Roinnian	Traffic Expert
Mr. Manuchehr Borhani	Head of Technical Affairs

Mr. Mehdi Riazi	Advisor of Head of Traffic
Gen. Mohammad T. Fatemi	Representative of Shahanshahi Investigation
Mr. Kamal Behruzi	Translator, Traffic Department

<u>Other Organization</u>

Gen. Sayfeddin Marashi	President, Tehran Metro Co.
Gen. Raznara	General Managing Director, United Bus Co.
Col. R. Noori	Traffic Manager, United Bus Co.
Mr. H. Kharra	Technical Manager, United Bus Co.
Mr. Haashami	Financial Manager, United Bus Co.
Mr. Asgharzadeh	Tehran University
Dr. Nasser Sabet	Consulting Engineer
Dr. Ali A. Ardakanian	Managing Director, RAMP Consulting Engineers
Mr. Safavian	Consulting Engineer



1. st, priority
2. nd, priority
proposed elevated expressway around CBD
現状の高速道路
2年間に建設予定
5年間に建設予定
道路省管轄環状線計画
市内道路改善計画　拡巾及び新設
مقیاس ۱:۳۰۰۰۰
KARAJ